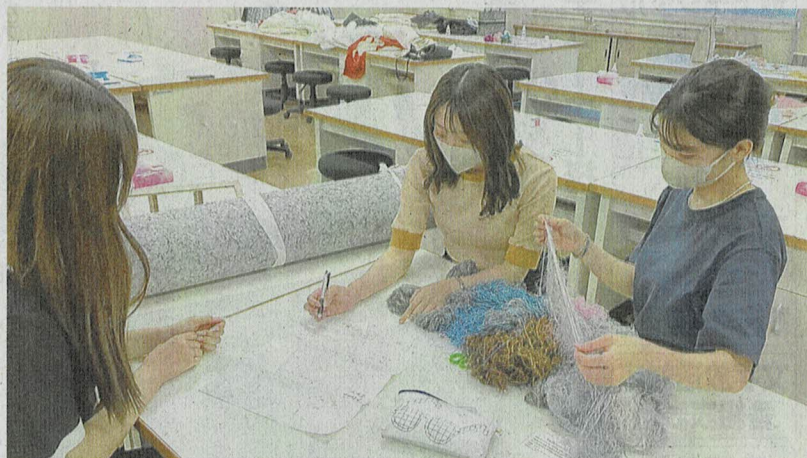


廃棄繊維で服・アクセ

関西の大学生・研究者ら開発 来月大阪でイベント



企業から提供された廃材を使い、商品作りに取り組む学生たち
(京都市右京区・京都光華女子大)

関西の大学の学生と研究者らが、国連のSDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた取り組みを企業と協働しながら進めるグループ「エン・ウィ・クル」を結成した。活動の第一弾として、繊維廃材で作った服やアクセサリーの販売などをするイベント「私たちのSDGs」を9月2〜11日に、なんばマルイ(大阪市中央区)で開く。

(行司千絵)



滋賀県立大の学生が考案した、廃棄予定の制服で作ったがま口ポシェットとスカート

企業が素材提供 SDGs 実現へアップサイクル

サステナブル（持続可能）に特化した店舗がある有楽町マルイ（東京）が、繊維リサイクルに詳しい木村照夫・京都工芸繊維大名誉教授に「学生と一緒にSDGsに関連した取り組みをしたい」と提案したのがきっかけ。京阪神の研究者に声をかけ、今年初めに「縁」や「リサイクル」の意味が込められた「エン・ウィ・クル」を結成、学生たちに参加を呼び掛けた。

イベントに参加するのは京都女子大や滋賀県立大、甲南女子大など9大学の学生60人。ワコールや帝人、フジックス、ニトリホールディングスなど20社から、不織布の端や残糸など廃棄予定だった繊維材料の提供を受け、商品開発を進めた。

販売するのは、漁網やフェルトなどの廃材で作ったスカート(滋賀県立大)、ミシン糸を素材にしたネックレスやヘアゴム(京都光華女子大)、古着やはぎれを材料にした付け襟(四天王寺大短期大)など。ワークシヨップとして「繊維廃材でスマホポシェット作り」(2〜4日、要予約、500円)と「廃棄繊維などを原料としたビーターガンレザーで小物入れ作り」(9日、500円)を開くほか、企業担当者や研究者が、廃棄物に新たな価値を加えて再生し新製品としてアップグレードする「アップサイクル」などについて語るトークショー(9、10日、無料)もある。

木村さんは「大学が共に手を携え、企業の協力を受けて廃棄予定の繊維材料のアップサイクルに取り組むのは新たな試み。未来を担う学生たちが考えた商品を通して、環境について考える場になれば」と話している。



甲南女子大の学生が廃棄予定の生地で作ったアクセサリ